

警告

- 本品は非常時の露営や休憩等の使用を目的とした簡易シェルターであり、自立する山岳テントのような居住性と耐久性、防水性、抗雪性等を求めたものではありません。設営の際は、風・雨・雪の影響が少ない安全な場所を選んでご使用ください。
- ツェルト内では**火気を絶対に使用しないでください**。一酸化炭素中毒・酸欠・火災の恐れがあります。
- ツェルト内、雪洞内では常に換気を行ってください。酸欠の恐れがあります。

使い方 【ピコシェルター®】



①シェルターとして使用

シェルターとして使用する場合は、安全な場所を見つけ、荷物の一部をお尻に敷き、ザックを背中側において斜面や木立に寄りかかるように座り、ピコシェルター®を被ってください。細引きなどで天頂部を吊り、可能であれば4隅をベグダウンして設営してください。



③2つ合わせて使用

ピコシェルター®が2つある場合、ひとつに足から入り、もうひとつを頭から被ると、より快適に過ごせます。



②ポンチョ代わりに使用

ベンチレーターから頭を出し、ポンチョとして使用することができます。雨具の予備として、またプラス一枚の防風防寒具として使用してください。

使い方 【ツェルト1、ツェルト2ロング】



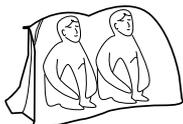
①ストック・ポール等を使用して設営

居住性を重視した最も基本的な設営方法です。ポールの代わりに直接木などに結び付けても設営できます。



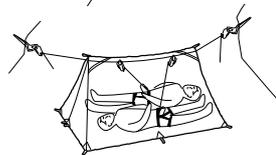
④タープとして使用(ツェルト2ロングのみ)

ツェルトの底を開放してタープとして使用できます。



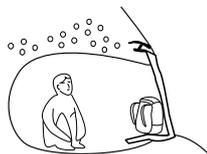
②かぶったり、包まって使用

緊急時や、休憩時に雨・風を防ぐための使用方法です。多人数での使用にも向いています。



⑤岩場でセルフビレイを取って使用

岩場で張る場合は、ファスナー上部からツェルト内部にメインロープを通してセルフビレイを取ることが可能です。(ツェルト1は両側のメッシュの下部にロープ挿入口があります)



③雪洞のふたとして使用

雪洞の入り口のふたとして使用すると風雪が吹き込むことを防ぐことができます。

ストック・ポール等を利用して設営する方法

【用意するもの】 直径2mm~3mm程度の細引き 5m×2本

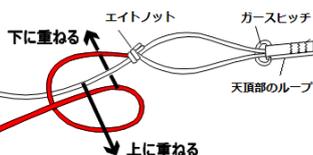
※軽量で高強度のロープとラインロック(自在)をセットした「ツェルトガイドラインセット(別売)」のご使用をお勧めします。

また、ツェルト2ロングで居住性を向上させたい場合はサイドリフター用として細引き1m×2本を別途ご用意ください。

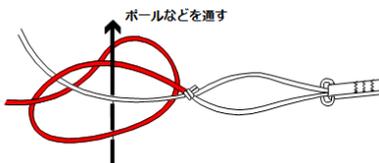
【事前準備】 グラウンドシートの底を閉じ、4隅をベグダウンします。(ピコシェルターはグラウンドシートがありません)



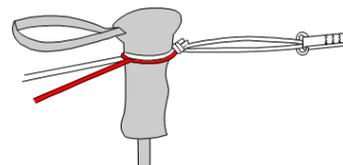
① 5mの細引きを半分に折ります。半折部分から、ピコシェルター・ツェルト2ロングは25cm程度のところに、ツェルト1は40cm程度のところに、エイトノットを作ります。



② ツェルト天頂部のループに細引きをガースヒッチで固定し、図のようにクロブヒッチでループを上下に重ねます。



③ 重ね合わせた2重ループの真ん中にストック・ポールなどを通して固定します。高さが100~110cm程度のストック・ポールをお勧めします。



④ 2本の細引きを引っ張り、末端をベグや石で固定すると完成です。最後にストックの高さを微調整してテンションを整えます。

※柔らかい雪面であればグリップを上にとすると、ストックが沈みません。硬い地面であれば、ストックを逆さまにして石突を下から差し入れても利用できます。

注意事項

- 汚れは真水で落とし、陰干しで充分乾燥させてから保管してください。
- 汚れや水が付着したまま放置しますと、生地の変質や色落ち、異臭、カビの原因になります。
- 縫い目部分の目止めは行っておりません。製品外側の縫い目部分に、市販のシームコート剤を使用することで防水性を向上させることができます。
- ご購入後は安全を確保したうえで、繰り返し使用方法を練習することをお勧めします。